

内科 糖尿病代謝科

病棟 東病棟 16F

外来 外来診療棟A 2F 連絡先 022-717-7779

ホームページ <http://www.diabetes.med.tohoku.ac.jp/>



科長
片桐 秀樹 教授

主な対象疾患

●1型糖尿病 ●2型糖尿病 ●脂質異常症(高脂血症) ●肥満症 ●メタボリックシンドローム ●動脈硬化症 ●低血糖症 ●高尿酸血症 など

診療内容

ライフスタイルの欧米化によって生活習慣病が増えています。失明・腎不全・神経障害や足壊疽などの合併症や動脈硬化症で苦しめる患者さんも増加しています。一昔前は、糖尿病の薬剤というとインスリン注射が数種の内服薬に限られていました。しかし、現在は、多くの種類の内服薬が使用可能となり、インスリン製剤もバージョンアップされ、無数の組み合わせの中から個々の患者さんの病状に最もフィットした治療法を選択できる時代となっています。24時間持続インスリン注入療法(CSII)(図1)も手軽にできるようになりました。これらにより、糖尿病のコントロールも飛躍的に改善しています。

当科は、生活習慣病の診療の「拠点」として、東北地方の多くの病院からさまざまな患者さんの紹介をいただいています。1型糖尿病の症例、血糖コントロールが不良で治療に難渋する症例、なかなか減量できない高度肥満症例、原因不明の低血糖症例、合併症をまとめて検査したい症例などです。

さらに、大学病院の他科の入院患者さんの糖尿病診療に関する全ての依頼に迅速に対応し、最適の治療法を選択しお勧めしています。

院外から紹介された患者さんは、当科での治療後、原則的に紹介元の病院や医院に戻って治療を続けていただきます。

持続血糖測定システム(CGMS)(図2)を病棟・外来に備え、24時間の血糖変動を把握することで最適の治療につなげています。また血糖値をモニターしながらインスリン注入量を調節するリアルタイムCGMセンサー併用型インスリンポンプ療法(SAP)(図3)の症例数も豊富です。日々変化する医療技術に対応した糖尿病専門医による診療をお勧めします。

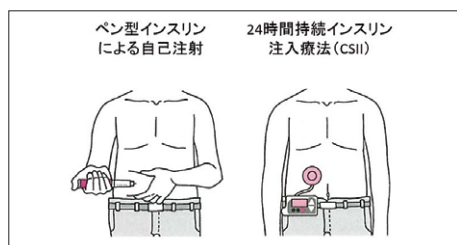


図1 (左)ペン型インスリンを腹部などの皮下に自己注射します(右)24時間持続インスリン持続療法(CSII)ポンプに充填されたインスリンがチューブを介して持続的に皮下に注入される医療器具です。

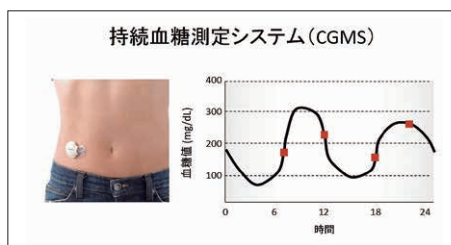


図2 腹部などの皮下にセンサーを留置し、間質液のグルコース値を持続的に自動的に得ることができる。血糖推移を「点」ではなく「線」で捉えることが可能であり、糖尿病の診断、治療に役立つ医療機器です。



図3 CGMSで血糖値をリアルタイムにモニターしながらインスリン注入量を調節することができる治療法が「リアルタイムCGMセンサー併用型インスリンポンプ療法(SAP)」です。

診療体制

外来では、血糖コントロールに加えて、糖尿病合併症や肥満症、脂質異常症、動脈硬化症の診断と治療を行っています。また、糖尿病療養指導士によるインスリン注射や自己血糖測定の指導、日常生活の指導や足病変の管理指導、管理栄養士による食事療法の指導など、充実したチーム医療で、できるだけ無理なく、糖尿病に対応できる対策を患者様と一緒に推進しています。入院に関しても目的に応じて次のようなさまざまなプログラムで対応しています。

・教育入院：糖尿病を理解し、食事・運動療法を実際に体験し、その効果を実感すると共に、薬物療法も必要に応じて始めるための2週間程度の入院です。

・検入院：糖尿病や合併症の精密検査を集中して行う1泊から1週間以内の入院です。

・治療入院：血糖コントロール不良の場合に治療法を見直し、合併症を治療するための入院です。

・緊急入院：糖尿病昏睡、重症感染症、低血糖などのため急に入院治療が必要になった場合、迅速に随時対処します。

入院患者さんの治療に関しては、毎週月曜日に全体の症例検討を行い、教授のもとスタッフ全員で協議し、方針を決めています。

得意分野

代謝疾患全般

1型糖尿病、2型糖尿病、低血糖症、高度肥満症、家族性高コレステロール血症など

ご紹介いただく際の留意事項

■新患日は火・金です。